

テュートリアル課題 運動がしたい

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-06-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京女子医科大学 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00033204

2018年度 Segment. 6

課 題 No.2

課題名：運動がしたい

課題作成者：整形外科学

萩原洋子



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。

シート1

薫君は運動が大好きです。小学生まではリトルリーグに入っていてピッチャーをしていました。よく肘が痛くなって、近所の整形外科に通ってました。野球のやりすぎ、肘がついていけないから違うスポーツに変えてもいいかもと言われていました。

中学生になったので、今度はバスケットボール部に入ることにしました。部活は毎日あり、足が筋肉痛です。1週間前にジャンプをして着地をした時に左膝に激痛が走り、少しの間、左膝が伸びなくなりました。その後は痛みは引いてきました。部活動を休みたくないなので、お母さんには内緒にしてみました。

シート2

2ヶ月後の夕方、学校から自宅にいたお母さんへ連絡が来ました。薫君が部活動の最中に左膝が痛くて動けなくなったため迎えに来て欲しい、とのことでした。お母さんが学校へ到着すると学校の保健室で左膝が痛くて歩けなくなった薫君がいました。薫君はお母さんに、体操着に着替えて体育館へ行く途中に膝が痛くなって歩けなくなった、と説明をしました。

保健室の先生からは、左膝が腫れていることを指摘され、このあとすぐ病院に行くように言われました。

シート3

以前野球肘の治療をしてくれた近所の整形外科へかかりました。問診の際に、いつから腫れていましたか？、熱は出ましたか？と質問をされました。お母さんは特に発熱した様子はなく、1ヶ月前にいつものジーンズがきついと言っていたことを思い出しました。
エックス線検査をしたところ、他に詳しい検査が必要であり、大きい病院にすぐ行くようにと紹介状を渡されました。

シート4

かかりつけの先生からの紹介状を持って、お父さんとお母さんと一緒に大学病院に行きました。
担当の先生は、エックス線の結果を見ながら、今日すぐ入院して色々検査をしなくてははいけません、と言いました。
入院してすぐいくつか検査をしました。
結果を見ながら今の病気の説明を聞いた薫君は、自分が悪い病気??とびっくりして、僕は死んじゃうの?と質問をしました。
あともう一つ重要な検査をすると病気の名前が決まります、しっかり治療をすれば治るから大丈夫!頑張りましょう、と先生が言いました。
まだ検査するの?で、治療?どんな治療何だろう、、、

シート5

入院後の最後の検査は、切開生検でした。全身麻酔をかけて手術室で行いました。麻酔から覚めたら、首のところから細い管が出ていて、ここから点滴したり、採血したりしますよ、と看護師さんが教えてくれました。翌日組織の結果を先生が紙に書いて色々説明してくれました。お父さんとお母さんは病気のことや将来のことなど沢山質問していましたが、薫君が覚えていたのは、自分が骨肉腫という悪い病気で、1年間は病院の中の学校に転校しなくちゃいけなくて、運動ができなくなるかもしれない、ということだけでした。

シート6

抗がん剤が始まって元気な日もあれば辛い日もありました。手術も頑張って受けました。傷が治ると、また抗がん剤が始まりました。抗がん剤治療の最中もリハビリを頑張って杖で歩けるようになっていきます。人工関節にしたので、運動は苦手な足になりましたが、東京パラリンピックの話のリハビリの先生が教えてくれて、自分はどんなスポーツができるようになるか楽しみにしています。

お母さんは、こんな小さい時に抗がん剤をこんなに沢山使って大丈夫かしら？、膝が不自由だから障害者なのかしら？と心配は沢山ありました。

シート7

再発や転移もなく、薫君は大学生になりました。今は、車椅子バスケットボールの選手で活躍しています。担当の先生からは、手術して10年転移や再発がなければ完治だと聞いています。最近は人工関節が緩んでないかが心配です。